令和３（２０２１）年度　御船町立高木小学校　学校便り

高き志【こころざし】

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

No. 21（R3. 10. 12発行）文責 校長 福田雅也

体育という教科で学べるもの

ある人が真にスポーツマンであるかどうかは、勝負に負けた時の態度で分かる。負けたときに素直に負けを認め、それでいて頭を垂れず、相手を称え、意気消沈せずにすぐに次に備える人が真のスポーツマンだ。

これは、以前読んだことのある「スポーツマンシップを考える」という本の中に書いてあったことです。そして、その本には次のような文章もありました。

英語には　″He is a good sport″　という言い回しがあり、「彼は信頼に足る人物だ」という意味で、″sport″　という言葉が入っているが、スポーツの場面に限って使うものではない。

最近まで４年生は、体育でボールゲームの学習をしていました。４年生の学級だよりには次のような記述がありました。

合言葉１・２・３でボールを繋げ！プレルボール大会
２学期に入って、体育では「プレルボール」という学習を行いました。子どもたちからご家庭で話を聞いているかもしれませんが、プレルボールは、バレーボールに似たネット型のボール運動で、ボールは必ずワンバウンドさせて、決められた回数で相手コートに返球しながら、得点を競い合います。全員の子どもが初めて経験する運動に、当初は苦戦を強いられていましたが、チームとボールを繋ぐためにできることを話し合い、ハイレベルな攻防を繰り広げていました。ゲームの中で、１分以上得点が決まらずラリーが続く場面もありました。負けが続くことで涙する子もいましたが、試合を終える度に負けを引きずらず、次の試合にどう生かせるかを考えながら、最後の試合に負けても、自分たちが意識してきたことはやり切ったと言える学習になって良かったです。わたしは、見ることが多かったのですが、毎時間レベルアップしていく子どもたちの姿に驚かされました。

この文章から、４年生は「プレルボール」の学習を通してしっかりと「スポーツマンシップ」を学べていることが伝わります。４年生くらいでボールゲームをする場合は、勝負にこだわったり、自分中心のプレーをしたり、勝ちたいばかりにチームメイトを非難したりと、様々なトラブルが多く起こることがあります。しかし、それらを避けてボールゲームの学習はできないのです。ですから、教師はトラブルが起こることを想定したうえで、そこから態度面の学びにつながるように準備をして授業をします。専門的な話になりますが、学習指導要領には、この分野の学習内容として次のような記述があります。

・ゲームの規則を守り、誰とでも仲よくすること　　・ゲームの勝敗を受け入れること

体育は体力を高めたり技能を高めたりするだけではなく、スポーツマンシップにつながる態度面も学習内容として明確に位置付けられているのです。また、この他にも態度面の学習内容として「仲間と助け合うこと」「分担された役割を果たすこと」「仲間の考えや取組を認めること」等が示されています。学習内容としてこのような人格形成に関わる内容が示されているのが体育の大きな特徴です。

４年生が取り組んだ「プレルボール」のような学習を繰り返すことで、高木小の子どもたちの心にスポーツマンシップが徐々に浸透し、そのことがスポーツ以外の場面でも生かされることで″He is a good sport″（信頼に足る人物だ）と言われるような人になってほしいものです。